

よ読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

旧津山城下の町割りを残す津山市城西地区に来年の春、人力車がお目見えます。記事を読み質問に答えましょう。

Q1

人力車は、人を乗せて人が引いて走る車のことです。みんなが乗りたくなる人力車のデザインや形を考えて、絵にしてみましょう。

てい がくねん
低学年もチャレンジ!

Q2

第2段落の「呼び水」という言葉には、いくつかの意味があります。この文章にふさわしい意味を調べて、書いてみよう。

今年の津山・城西まるごと博物館フェアで人力車を引く人力車隊メンバー。来春は自前で観光客を迎える10月1日



津山 国重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)の津山市城西地区に来春、人力車がお目見えする。自前の車で年間を通じて観光振興に活用できる地元住民でつくる城西まちづくり協議会がクラウドファンディング(CF)で費用を調達した。旧津山城下の町割りを残す地区内の散策をゆったり楽しめる乗り物として定着を目指す。(小林貴之)

城西地区では大正期の町 博物館フェアで20年以上のにぎわいを再現した秋恒 レンタルの人力車を運行。例の「津山・城西まるごと 昨年からは地元青壮年会の

まちづくり協 C Fで購入 **観光振興へ自前運行**

6人が引き手を務める「人力車隊」を結成して人気を集めたが、借り物とあって常時運行できず、効果的な観光の呼び水にならないのが課題だった。

CFは9月4日、目標額200万円を掲げてスタート。20日間で目標に到達し、期限の同30日までに142人から263万3千円を集めた。協議会によると、住民も個人のSNS(交流サイト)で協力を呼びかけるなど後押ししたという。

人力車は桜の開花時期となる来年4月に披露する予定。観光シーズンの定期運行や若手僧侶の案内で地区内の寺社を巡る「おかげめぐり」で走らせる構想を描いている。

発起人となった協議会下部組織のNPO法人・つやま城西ほりおこし隊の廣本慎太郎さん(61)は「同市安岡町はCFの支援に感謝したい。狭い路地が広がる地区内に人力車はぴったりで、レトロな町並みと乗り物を共に楽しんでもらえたら」と話している。

Q3

人力車は来年4月に披露される予定です。具体的な構想の記事から2点探して、答えてみて。

過去の問題は
 こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。

城西地区に来春 **人力車**

2023年11月14日付、作州面